

女川原子力発電所における平成23年東北地方太平洋沖地震時等に取得された地震観測記録のはぎとり解析結果(概要)

3.11地震および4.7地震時に取得された敷地地盤の地震計(図-1)による解放基盤表面相当位置(O.P.^{※1}-8.6m)の地震観測記録(表-1、図-2)について、はぎとり解析を実施した結果を表-1および図-3に示す。

はぎとり解析実施前の地震観測記録の応答スペクトルでも基準地震動Ssを一部の周期帯で上回っていることを確認していた。今回実施したはぎとり解析による応答スペクトルは、短周期帯で揺れが大きくなり、その他の周期帯ではほぼ同等であることを確認した。引き続き基準地震動Ssを一部の周期帯で上回った要因の分析に関する詳細な評価を実施する。

なお、当社は、3.11地震および4.7地震時において、女川1号機、2号機および3号機の原子炉が安全に停止するとともに、これまでの点検において、原子炉を「止める」「冷やす」、放射性物質を「閉じ込める」機能を有する耐震安全上重要な施設に被害がないことを確認している。また、地震観測記録に基づく地震応答解析の結果、耐震安全上重要な主要施設は、いずれの地震時においても機能維持の評価基準値を満足していることを確認している。

(平成23年4月7日、4月25日、7月28日お知らせ済み)

※1:O.P.とは、女川の工事用基準面で、O.P.±0.0mは東京湾平均海面(T.P.)-0.74mに相当する。

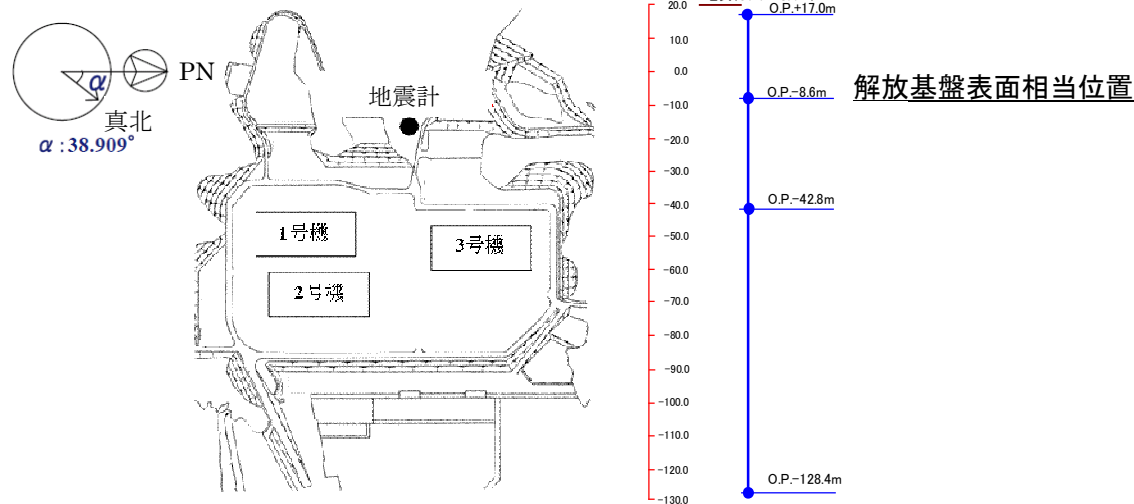


図-1 敷地地盤の地震計設置位置

表-1 地震観測記録とはぎとり解析結果の最大加速度値^{※2} (単位:ガル)

		南北方向	東西方向	鉛直方向
3.11地震	地震観測記録	467	421	269
	はぎとり解析結果	517	636	312
4.7地震	地震観測記録	321	396	203
	はぎとり解析結果	397	554	307
基準地震動 Ss		580		387

※2:PN基準に補正した値(PN[プラントノース]:敷地の基準となる北方向で、真北とは異なる)

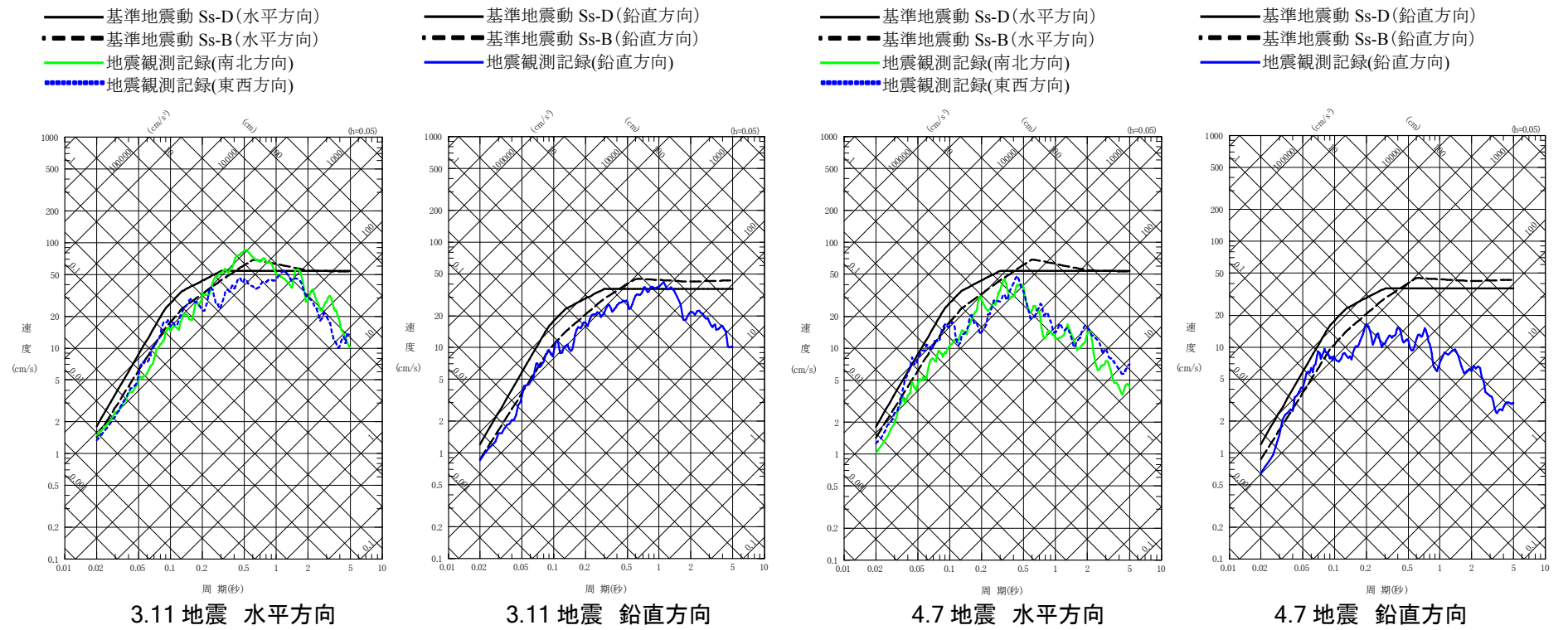


図-2 解放基盤表面相当位置の地震観測記録の応答スペクトル (平成23年4月7日、4月25日お知らせ済)

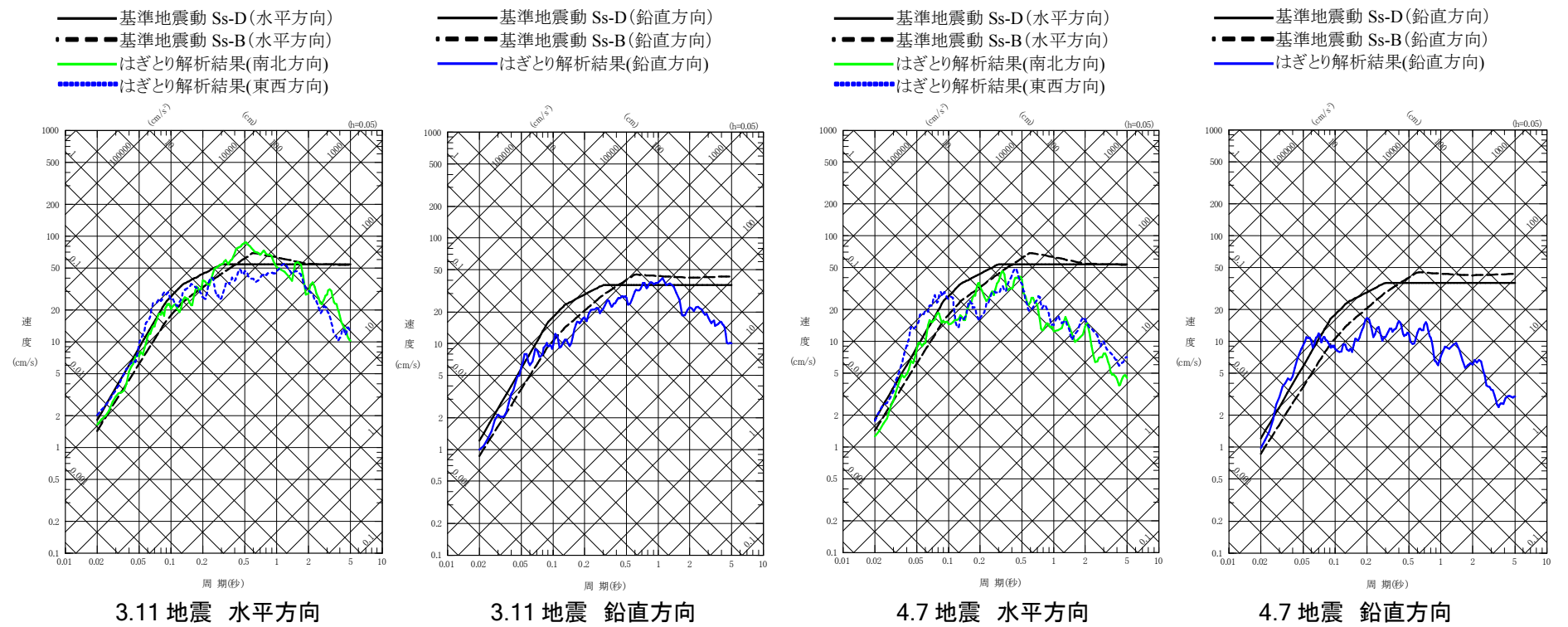


図-3 はぎとり解析結果の応答スペクトル